

施策を絞る・磨くための現状分析

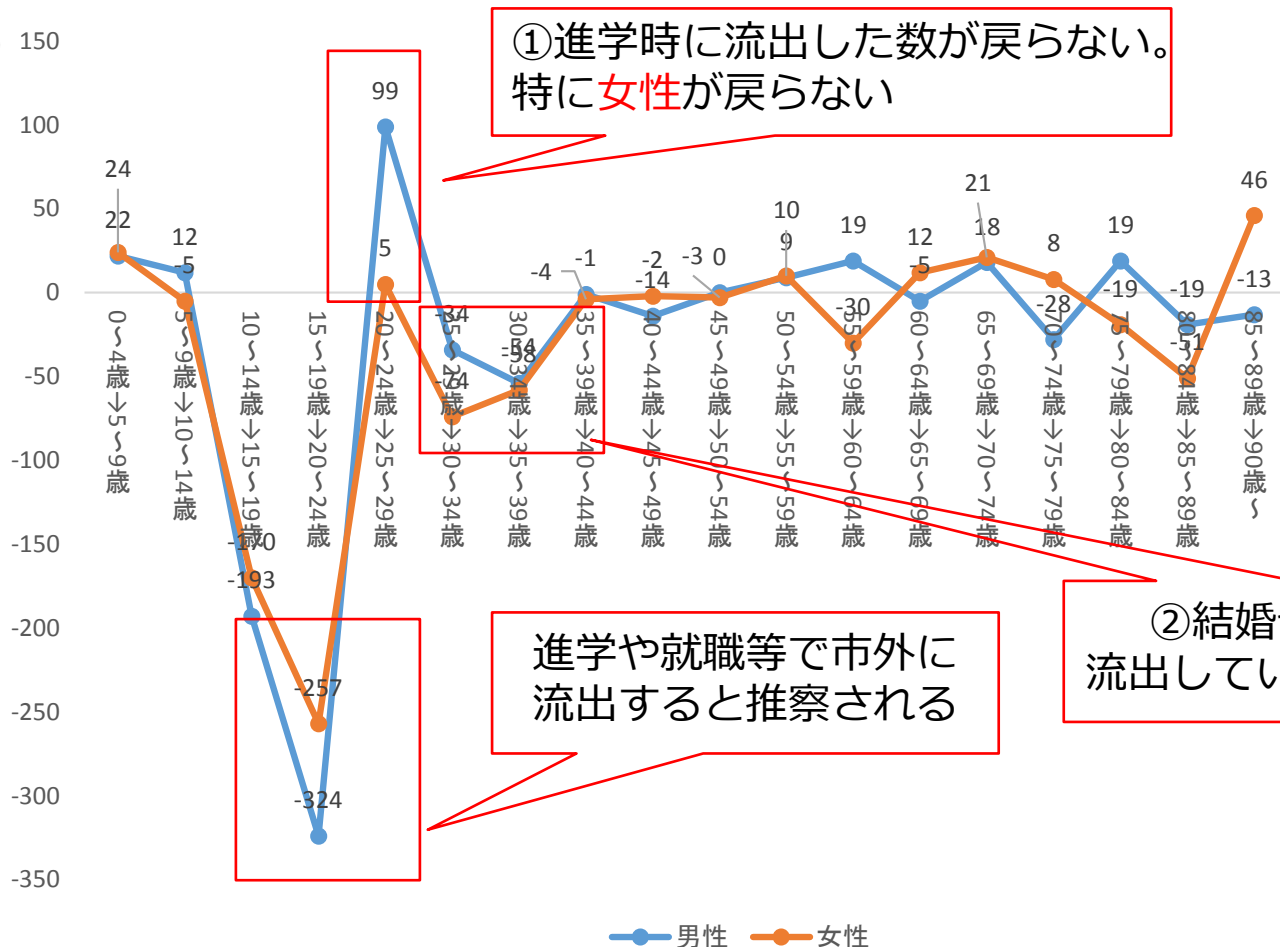
第四回 氷見市まち・ひと・しごと創生戦略推進協議会
平成27年8月31日（月）

社会増減のフォーカスポイント

- 社会増減については、「①進学で氷見市外に引っ越した人が戻らない」「②30代での社会流出が続いている」という状況です

2005年→2010年の氷見市の人口移動

(単位：人)



①進学時に流出した数が戻らない。
特に女性に戻らない

進学や就職等で市外に
流出すると推察される

②結婚や住居選択で
流出していると考えられる

(出典) resas『富山県氷見市 年齢階級別純移動数の時系列分析』より

前ページ資料の具体的数値

- 進学等で流出した人が戻って来ない人数は約160人であり、30～39歳の純流出は約40人です

年齢階級 単位：人 (2005年→2010年)	男性	女性	氷見市：男女	左記÷5	2005年時点の 年齢階級別人数	
0～4歳→5～9歳		22	24	46	9.2	1,971
5～9歳→10～14歳		12	-5	7	1.4	2,255
10～14歳→15～19歳	-193	-170	-363	-72.6	2,354	
15～19歳→20～24歳	-324	-257	-581	-116.2	2,351	
20～24歳→25～29歳	99	5	104	20.8	2,055	
25～29歳→30～34歳	-34	-74	-108	-21.6	2,782	
30～34歳→35～39歳	-54	-58	-112	-22.4	3,383	
35～39歳→40～44歳	-1	-4	-5	-1.0	2,851	
40～44歳→45～49歳	-14	-2	-16	-3.2	2,831	
45～49歳→50～54歳	0	-3	-3	-0.6	3,262	
50～54歳→55～59歳	9	10	19	3.8	3,980	
55～59歳→60～64歳	19	-30	-11	-2.2	5,225	
60～64歳→65～69歳	-5	12	7	1.4	3,876	
65～69歳→70～74歳	18	21	39	7.8	3,478	
70～74歳→75～79歳	-28	8	-20	-4.0	3,921	
75～79歳→80～84歳	19	-19	0	0.0	3,373	
80～84歳→85～89歳	-19	-51	-70	-14.0	2,312	
85～89歳→90歳～	-13	46	33	6.6	1,244	
10～14歳→15～19歳 と30～34歳→35～39 歳の合計	-506	-554	-1,060	-212.0	12,925	
全体の総和	-487	-547	-1,034	-206.8	53,504	

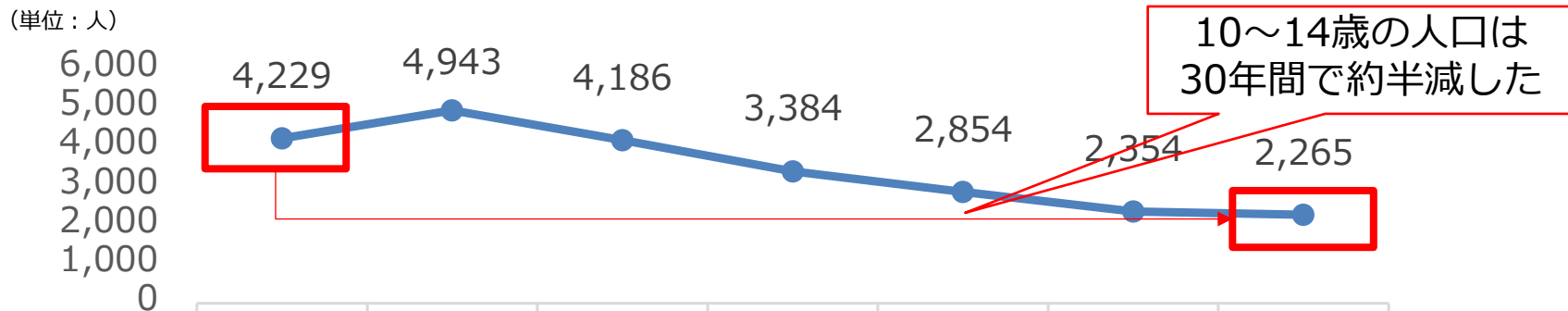
進学等で人口流出するが、約20人しか帰って来ない（トータルで約160人が純減）

30～39歳までの10年間で40人が純流出（約40人が純減）

(ご参考) 10～14歳の人口の推移

■ 10～14歳の人口は、基本的に年々低減しています。1980年調査から2010年調査の30年間で、10～14歳の人口が約半減（厳密には46%減少）しています

・ したがって、前ページで社会増減を考える際にはこの人口差も考慮する必要があります



2010年に40～44歳の 10～14歳時点人口	2010年に35～39歳の 10～14歳時点人口	2010年に30～34歳の 10～14歳時点人口	2010年に25～29歳の 10～14歳時点人口	2010年に20～24歳の 10～14歳時点人口	2010年に15～19歳の 10～14歳時点人口	2010年に10～14歳の 人口
1980年調査	1985年調査	1990年調査	1995年調査	2000年調査	2005年調査	2010年調査

一年あたり人数
(上記数値÷5)

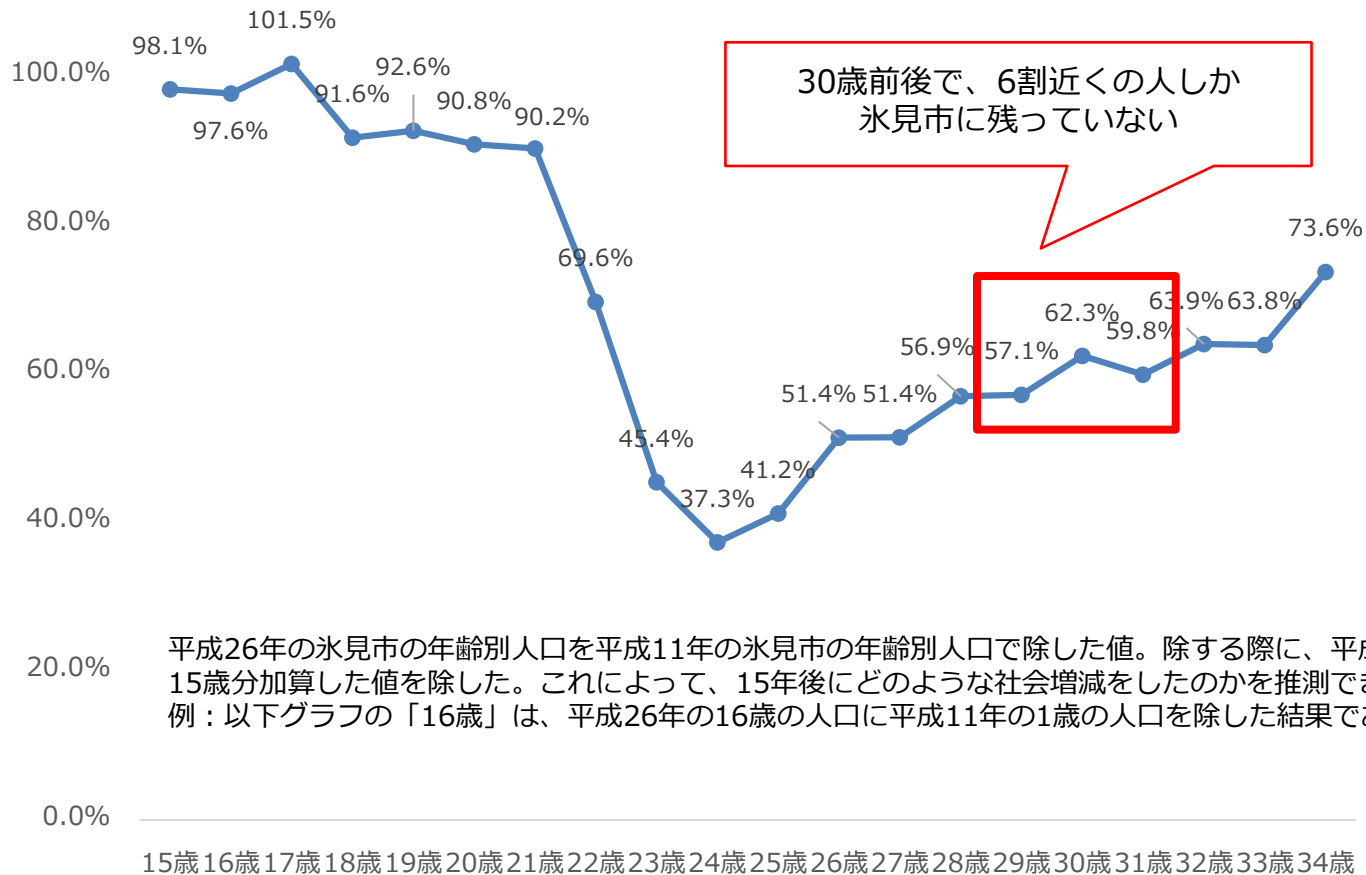
845.8 988.6 837.2 676.8 570.8 470.8 453.0

(出典) 昭和55年～平成22年国勢調査の情報をresas経由で取得

15年前と比較した同年代の人口

- 平成26年の年代別人口を15年前の同年代の人口（例：28歳であれば15年前の13歳）と比較した場合、30歳前後では6割近くの人口しか氷見市に残っていません
 - ・ 4割近くの人口が氷見市外に出たまま帰ってこないと考えられます

15年前と比較した同年代の人口割合（氷見市）



平成26年の氷見市の年齢別人口を平成11年の氷見市の年齢別人口で除した値。除する際に、平成11年の年齢を15歳分加算した値を除した。これによって、15年後にどのような社会増減をしたのかを推測できる
例：以下グラフの「16歳」は、平成26年の16歳の人口に平成11年の1歳の人口を除した結果である

仕事先の選択 ～氷見市の昼夜間人口比率～

- 氷見市の昼夜間人口比率は、県西部で最も低いです。通勤・通学をするために県外に出ている割合が高いため、結婚や住宅購入の際に職場近くへ行く可能性も高くなると推察されます

市町村別の昼夜間人口比率(2010年・H22)

地域	市町村	夜間(常住)人口(人)	流入人口	流出人口	流入-流出	昼間人口(人)	昼夜間人口比率
新川	朝日町	13,651	1,568	3,565	△ 1,997	11,654	85.4%
	入善町	27,182	3,703	7,188	△ 3,485	23,697	87.2%
	黒部市	41,852	9,717	7,489	2,228	44,080	105.3%
	魚津市	44,959	9,548	9,265	283	45,242	100.6%
	計	127,644	-	-	△ 2,971	124,673	97.7%
富山	上市町	21,965	4,188	6,878	△ 2,690	19,275	87.8%
	立山町	27,466	4,001	9,273	△ 5,272	22,194	80.8%
	滑川市	33,676	7,704	9,940	△ 2,236	31,440	93.4%
	舟橋村	2,967	670	1,383	△ 713	2,254	76.0%
	富山市	421,953	49,928	23,212	26,716	448,669	106.3%
計	508,027	-	-	15,805	523,832	103.1%	
県西部	射水市	93,588	19,361	23,804	△ 4,443	89,145	95.3%
	高岡市	176,061	30,400	28,161	2,239	178,300	101.3%
	氷見市	51,726	3,178	10,411	△ 7,233	44,493	86.0%
	小矢部市	32,067	6,049	7,722	△ 1,673	30,394	94.8%
	砺波市	49,410	10,941	12,961	△ 2,020	47,390	95.9%
	南砺市	54,724	7,500	9,128	△ 1,628	53,096	97.0%
計	457,576	-	-	△ 14,758	442,818	96.8%	
富山県	1,093,247	6,376	8,300	△ 1,924	1,091,323	99.8%	

市民の1/5に相当する1万人が昼間に外部流出

県西部では最も昼夜間人口比率が低い

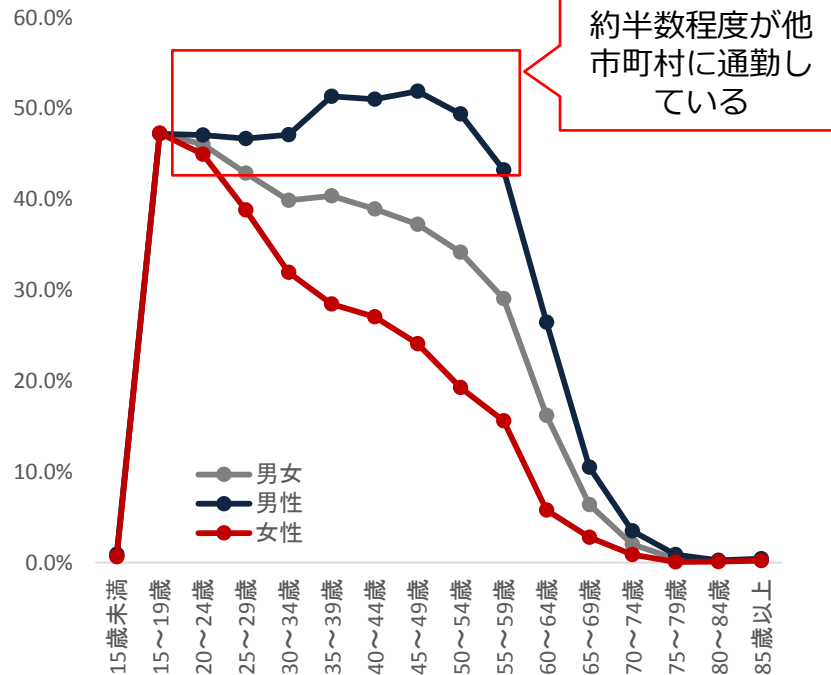
・夜間(常住)人口:調査の時期に調査の地域に常住している人口
 ・昼間人口:従業地・通学地による人口。買い物など非定常な移動は含まない。
 ・流入人口:他地域からの通勤・通学者数
 ・流出人口:他地域への通勤・通学者数

※総務省統計局「平成22年国勢調査(従業地・通学地による人口・産業等集計)」

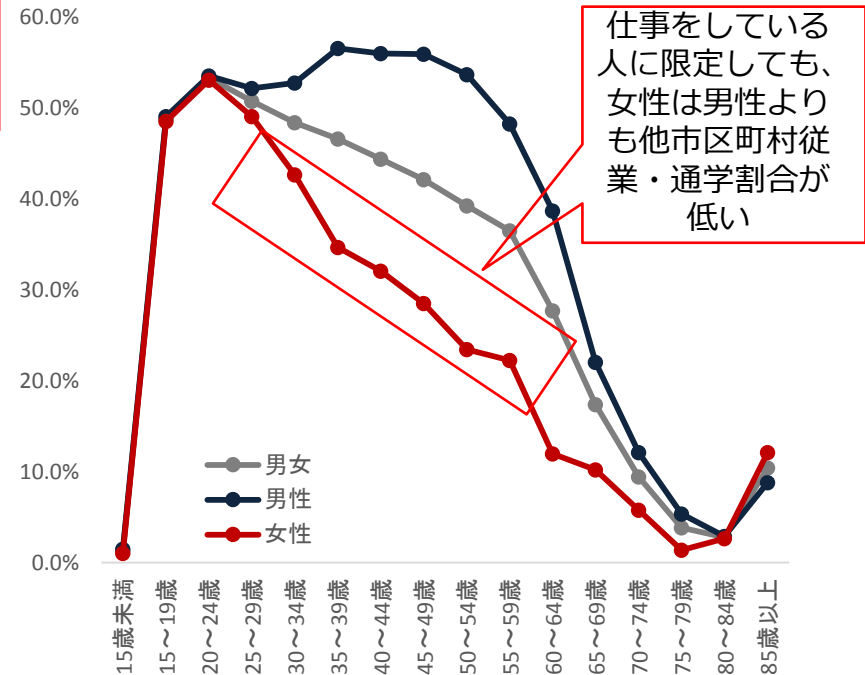
仕事先の選択 ～氷見市の昼夜間人口比率（年齢別グラフ）～

- 氷見市では、男性の生産年齢人口の約半数程度が他市町村に通勤しています
- 女性は、男性に比べると他市町村勤務者の割合が少ない（市内勤務の割合が多い）です。この傾向は「従業も通学もしていない者を除いた割合」においても同様です

夜間人口に占める他市区町村で従業・通学者割合



左記の分母から従業も通学もしていない者を除いた割合



(出典) 平成22年国勢調査より。計算の分母は「従業も通学もしていない」「自宅で従業」「自宅外の自市区町村で従業・通学」「他市区町村で従業・通学」の合計である。

(ご参考) 氷見市の昼夜間人口比率 (年齢別の表)

■ 氷見市の昼夜間人口比率の具体的な数値は以下の通りです

夜間人口に占める他市区町村 で従業・通学者割合

	男女	男性	女性
15歳未満	0.8%	0.9%	0.7%
15～19歳	47.2%	47.2%	47.3%
20～24歳	46.0%	47.1%	45.0%
25～29歳	42.9%	46.7%	38.8%
30～34歳	39.9%	47.1%	32.0%
35～39歳	40.4%	51.3%	28.5%
40～44歳	38.9%	51.0%	27.1%
45～49歳	37.3%	51.9%	24.1%
50～54歳	34.2%	49.4%	19.3%
55～59歳	29.1%	43.2%	15.6%
60～64歳	16.2%	26.5%	5.8%
65～69歳	6.4%	10.5%	2.8%
70～74歳	2.0%	3.5%	0.9%
75～79歳	0.4%	0.9%	0.1%
80～84歳	0.2%	0.3%	0.1%
85歳以上	0.3%	0.4%	0.2%
総数	20.8%	28.5%	13.8%

左記の分母から従業も通学も していない者を除いた割合

	男女	男性	女性
15歳未満	1.3%	1.5%	1.0%
15～19歳	48.8%	49.1%	48.6%
20～24歳	53.4%	53.6%	53.1%
25～29歳	50.8%	52.2%	49.1%
30～34歳	48.4%	52.8%	42.7%
35～39歳	46.7%	56.6%	34.7%
40～44歳	44.4%	56.1%	32.1%
45～49歳	42.2%	56.0%	28.5%
50～54歳	39.3%	53.7%	23.5%
55～59歳	36.6%	48.3%	22.3%
60～64歳	27.7%	38.7%	12.0%
65～69歳	17.4%	22.1%	10.2%
70～74歳	9.5%	12.1%	5.8%
75～79歳	3.9%	5.4%	1.4%
80～84歳	2.8%	2.9%	2.7%
85歳以上	10.4%	8.8%	12.1%
総数	34.9%	42.1%	26.5%

(出典) 平成22年国勢調査より。計算の分母は「従業も通学もしていない」「自宅で従業」「自宅外の自市区町村で従業・通学」「他市区町村で従業・通学」の合計である。

仕事先の選択 ～氷見市の昼夜間人口比率～

■ 氷見市から通勤や通学で昼間に出ていっている先の7割近くは高岡市です

付表 通勤・通学による市町村間の流入・流出口(15歳以上) (平成22年)

常住地(表側)の市町村から従業地・通学地(表頭)の市町村へ通勤・通学したことを表している。

例1: 富山市には、通勤・通学のために高岡市から7,605人、魚津市から2,770人……金沢市の934人を含む他県から2,570人大流入した。

例2: 富山市から、通勤・通学のために高岡市へ3,570人、魚津市へ1,582人……金沢市の1,092人を含む他県へ2,363人流出した。

氷見市民の昼間人口のうち7割近くは高岡市に出ている

従業地・通学地 常住地	富山市	高岡市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	射水市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	県内計	他県計	他県で最も多い市町村・流出口
富山市	/	3,570	1,582	119	2,788	821	894	174	415	5,788	273	1,639	2,548	156	38	20,805	2,363	金沢市 1,092
高岡市	7,605	/	89	2,145	91	29	3,488	2,035	1,364	9,409	4	20	40	8	3	26,330	1,705	金沢市 1,158
魚津市	2,770	51	/	1	2,025	3,057	12	1	5	106	16	294	97	535	131	9,101	113	金沢市 48
氷見市	1,138	6,822	20	/	10	13	214	180	176	1,436	0	2	4	1	1	10,017	361	金沢市 166
滑川市	5,109	110	2,040	2	/	787	16	5	6	139	65	998	313	134	29	9,753	131	金沢市 71
黒部市	1,615	42	3,010	4	702	/	6	6	4	63	8	104	40	1,438	343	7,385	83	金沢市 28
砺波市	2,019	4,179	23	103	14	13	/	1,554	3,567	869	1	5	17	1	0	12,365	547	金沢市 405
小矢部市	829	2,527	9	63	8	4	1,551	/	1,177	363	0	1	11	0	0	6,543	1,160	金沢市 835
南砺市	1,138	1,878	11	38	8	4	3,550	1,345	/	360	0	3	9	1	0	8,345	772	金沢市 570
射水市	10,992	9,763	98	410	140	41	826	249	317	/	6	42	69	9	1	22,963	698	金沢市 379
舟橋村	921	15	42	1	76	12	8	0	2	27	/	128	128	4	0	1,364	10	金沢市 3
上市町	4,153	70	466	0	1,016	130	18	4	5	123	142	/	629	22	4	6,782	56	金沢市 27
立山町	7,109	99	229	2	431	84	20	6	11	153	132	849	/	19	4	9,148	79	金沢市 51
入善町	1,210	50	1,191	0	249	3,304	4	1	5	43	0	46	19	/	936	7,058	113	糸魚川市 44
朝日町	421	9	505	1	80	1,178	2	0	1	15	1	17	8	1,224	/	3,462	96	糸魚川市 59
県内計	47,029	29,185	9,315	2,889	7,638	9,477	10,609	5,560	7,055	18,894	648	4,148	3,932	3,552	1,490			
他県計	2,579	1,111	225	274	61	171	308	485	408	420	15	29	63	143	70			
他県で最も多い市町村・流入人口	金沢市 934	金沢市 394	糸魚川市 57	七尾市 78	金沢市 6	糸魚川市 85	金沢市 129	金沢市 204	金沢市 212	金沢市 119	東京特別区 大阪市 2	糸魚川市 4	大町市 22	糸魚川市 92	糸魚川市 60			

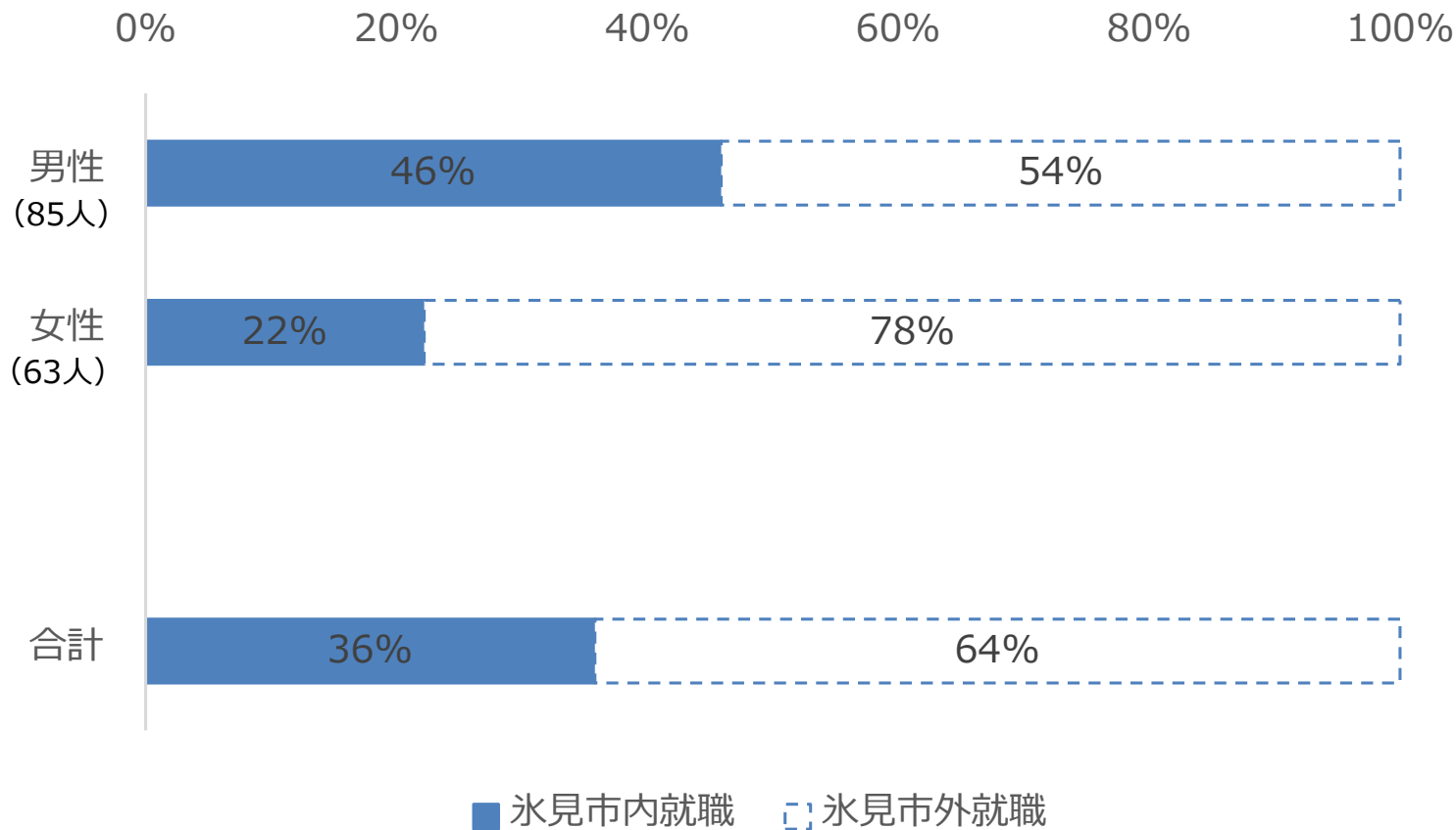
(出典) 平成22年国勢調査をとやま統計ワールド経由で情報取得

仕事先の選択 ～高卒の場合～

- 近年の高卒者でハローワークを経由して職を得た人の過半数は氷見市外での就職です

- ・ ヒアリングによると、高岡市等、近郊他市への就職が多いとの回答でした

H25年度～H27年度の氷見高校生のうち、就職者の勤め先



氷見市の仕事の状況 ～高卒の場合～

- 氷見市に仕事が無いというわけではありません。「仕事を選んでいる」「仕事の種類が合わない」という理由であると推察されます。そのため、人が戻ってくるには、ただ仕事があればよいわけではありません
 - ・ 高卒の有効求人倍率が以下の通りなので、大卒に関してはこの倍率よりも更に売り手市場であると推察されます

氷見高校生の進路 (男女)

	卒業者数	進学等者数	就職希望者数	就職希望者のうち、安定所又は学校紹介希望	氷見市内就職者数	氷見市外就職者数	確認印を押した求人数	有効求人倍率
平成25年度	270	222	46	44	21	23	110	2.50
平成26年度	274	215	59	52	17	35	98	1.88
平成27年度	272	220	52	52	15	37	113	2.17
合計	816	657	157	148	53	95	321	2.17

(出典) ハローワーク氷見の資料より。人数は三年分の合計。就職率は約2割

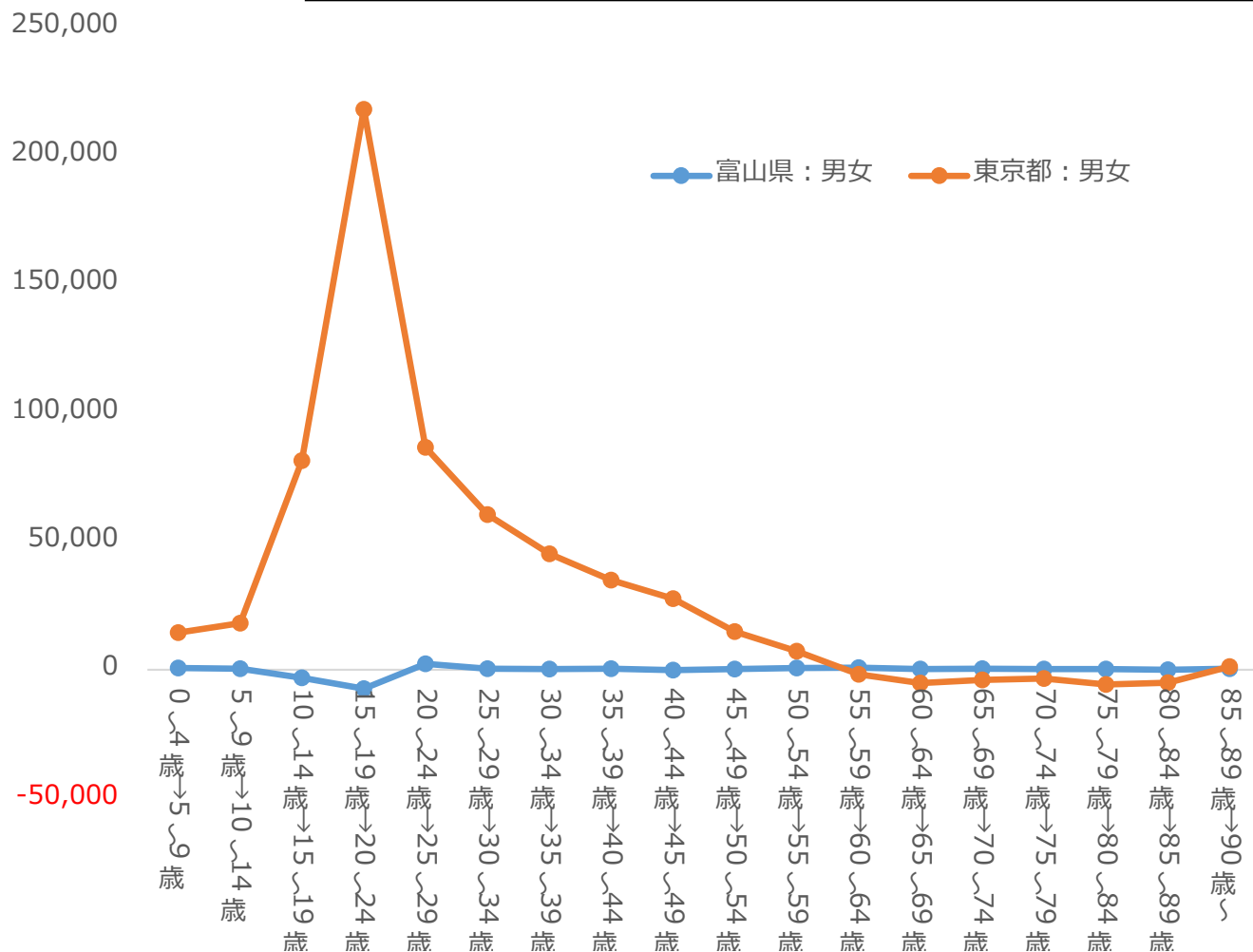
仕事が無いという状況ではない。
むしろ2社に1社を選べる状況である

(ご参考) 東京都の人口流入状況

■ 東京都は若年層を中心に人口が流入しています

(単位：人)

2005年→2010年の東京都と富山県の人口移動

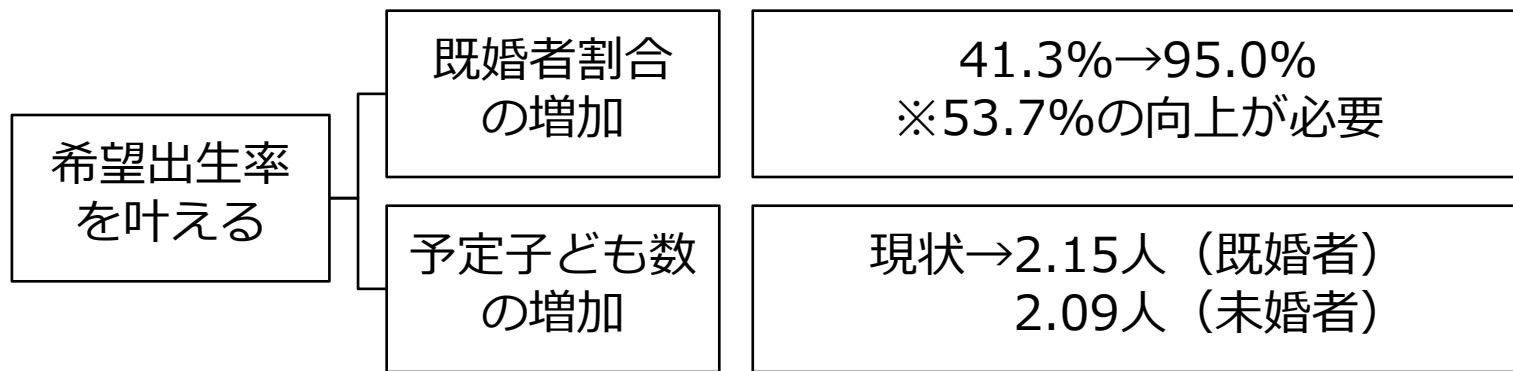


希望出生率の考え方

■ 希望出生率を叶えるには「既婚者割合を希望水準まで増やして」「予定子ども数を実現する」必要があります

- ・ 結婚や出産については個人の自由であり、原則として当人の意思を尊重すべきです。そのため、個々人の決定にプレッシャーを与えるようなことがあってはならないと考えます

希望出生率を叶える方法



【県民希望出生率】：県民の希望が叶った場合の出生率≒1.9

(①既婚者割合×②予定子ども数+③未婚者割合×④結婚希望割合×⑤理想の子ども数) ×⑥離別等効果
富山県 = (①41.3%×②2.15+③58.7%×④91.5%×⑤2.09) ×⑥0.938 = 1.89 ≒ 1.9

※対象年齢：20歳～34歳（回答413人）

（調査対象2,000人（20歳～39歳）、回答655人（回収率32.8%））

全国 = (①34%×②2.07+③66%×④89%×⑤2.12) ×⑥0.938 = 1.83 ≒ 1.8

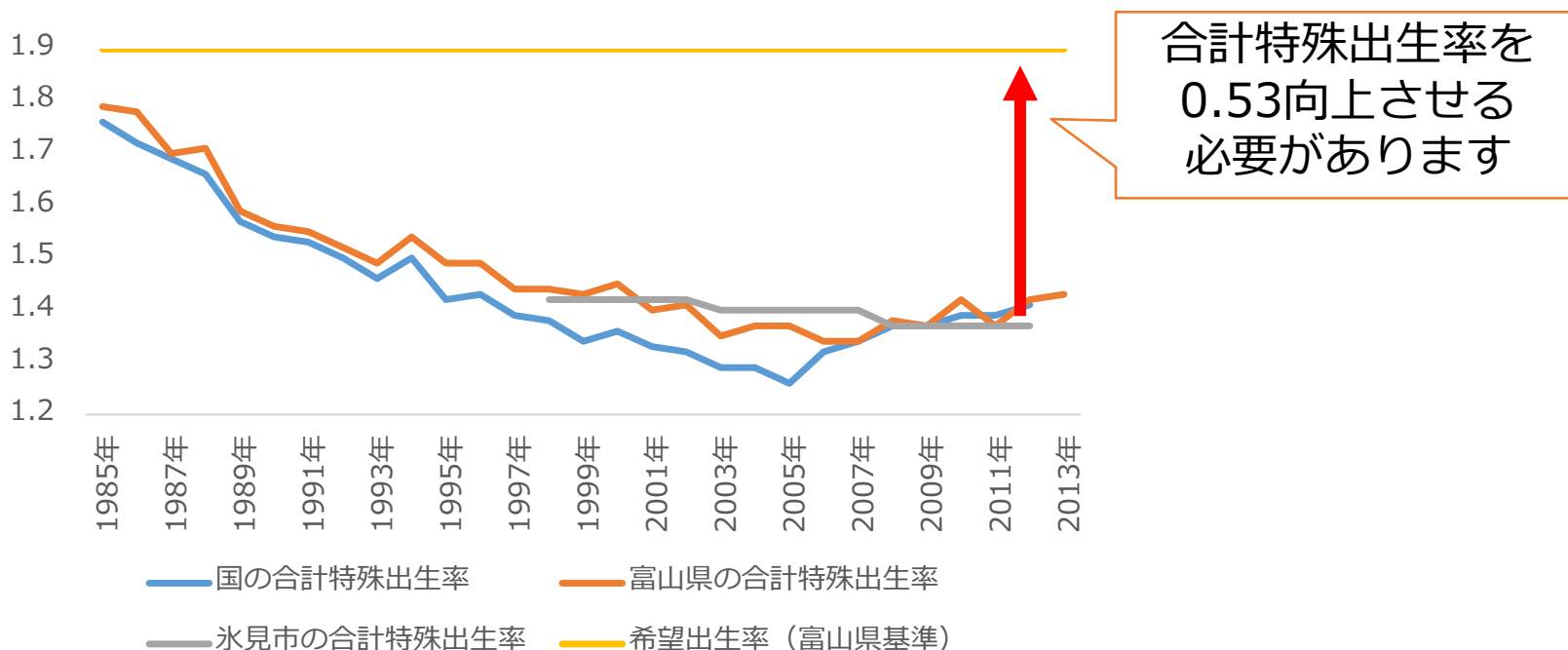
（出典）富山県子育て支援・少子化対策県民会議 基本計画策定部会(H26)の資料3より

現状における氷見市の合計特殊出生率と目標の乖離

■ 氷見市の合計特殊出生率は、1.37です

- ・ 合計特殊出生率とは、一人の女性が一生に産む子供の平均数です。氷見市の場合、一人の女性が一生に1.37人の子供を産むという計算になります
- ・ 希望出生率の1.90に到達するには、合計特殊出生率を0.53向上させる（1.37から38.7%向上させる）必要があります

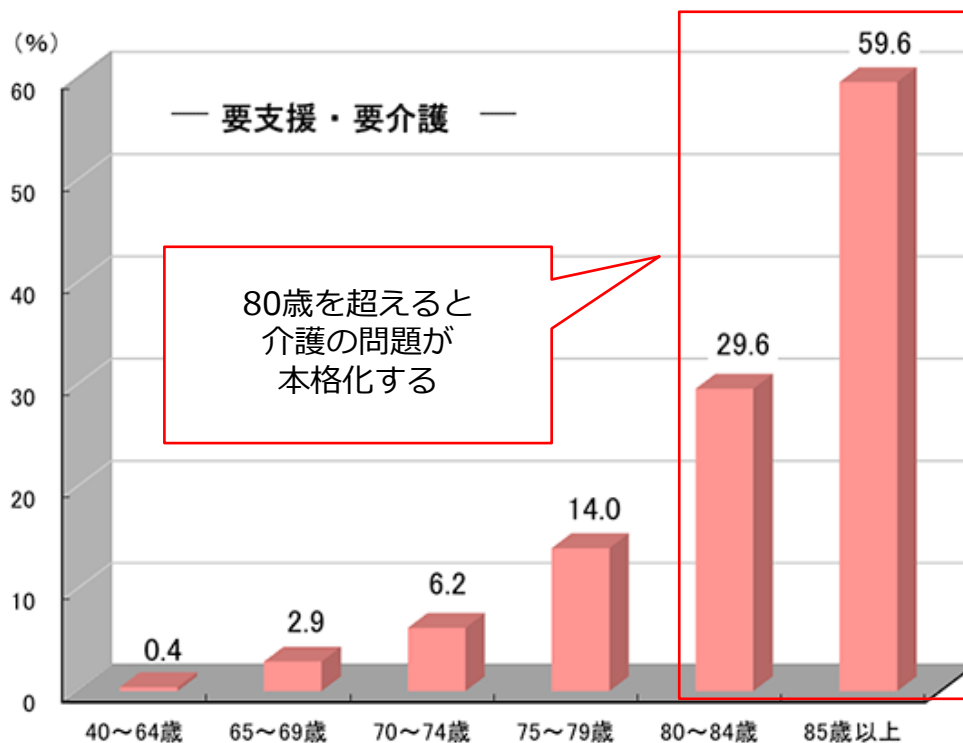
合計特殊出生率の推移と比較



年齢別要支援・要介護者の割合

- 高齢化とそれに伴う要支援・要介護者の人数は、80歳を超えると本格化します

年齢別要支援・要介護者の比率



(出典) 公益財団法人 生命保健文化センターより
元データは厚生労働省「介護給付費実態調査月報(平成26年7月)」
総務省「人口推計月報(平成26年7月)」